

東京大学研究倫理推進室

研究公正講演会

研究公正に関して、アジア太平洋地域を中心にグローバルな推進活動をしているダニエル・バー氏(ロイヤルメルボルン工科大学)をお招きして、オーストラリアにおける研究公正への取り組みに関する講演会を行います。ダニエル・バー氏は、APEC(アジア太平洋経済協力)での研究公正への取り組みや、共催者として研究公正に関する世界会議(The World Conferences on Research Integrity)に参加しています。アジア太平洋地域を中心として各国の研究公正に関する状況を知る機会となりますので、研究倫理担当者、URA関係者、教員、研究者、博士課程大学院生、その他学内外の研究倫理関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

平成30年11月15日(木)11:00~12:00

小柴ホール(東京大学本郷キャンパス内)

地図: https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_25_j.html

プログラム

開会挨拶 有信睦弘 大学執行役・副学長

講演 Daniel Barr (RMIT University, Australia)

“Experience of Establishing Research Integrity
at an Australian University”

質疑応答

※言語: 英語(日本語資料対応あり)

※終了後、希望者と講師との交流の時間を設けます。

お申込みは
こちらから

こちらのURLよりお申し込みください。

(<https://webform.adm.u-tokyo.ac.jp/Forms/1500621783/>)

主催: 東京大学研究倫理推進室 お問い合わせ: 研究倫理推進課 03-5841-0620
(内線20620)

講師紹介



Dr. Daniel Barr
Principal Research Integrity Advisor,
RMIT University, Australia

ダニエル・バー氏はロイヤルメルボルン工科大学にて研究公正の首席アドバイザーを務めており、責任のある研究活動の体制の構築、教育、調査を行っています。メルボルン大学へ研究公正のコースを提供している他、APEC(アジア太平洋経済協力)では研究公正の研究に従事、また、2019年6月2日(日)~5日(水)香港にて開催予定の「第6回研究公正に関する世界会議」では共催者を務めています。

講演概要

研究公正とは、研究の信頼性と卓越性を裏付けする原則を遵守すること、と定義できます。しかしながら、個人の経験、資質、ラボのしきたりなどの影響を受け、その解釈は研究者ごとに異なります。さらに大学が提供する環境が、責任のある研究活動に影響を与え得るというエビデンスもあります。

講演では、新しく2018年7月に発表された「責任ある研究活動のためのオーストラリア行動規範(2018)」を取り上げ、その中から、特に大学側の義務や役割について説明いただきます。また現在ダニエル・バー氏の所属するロイヤルメルボルン工科大学での研究公正のための新しい戦略についてもお話しいたします。